

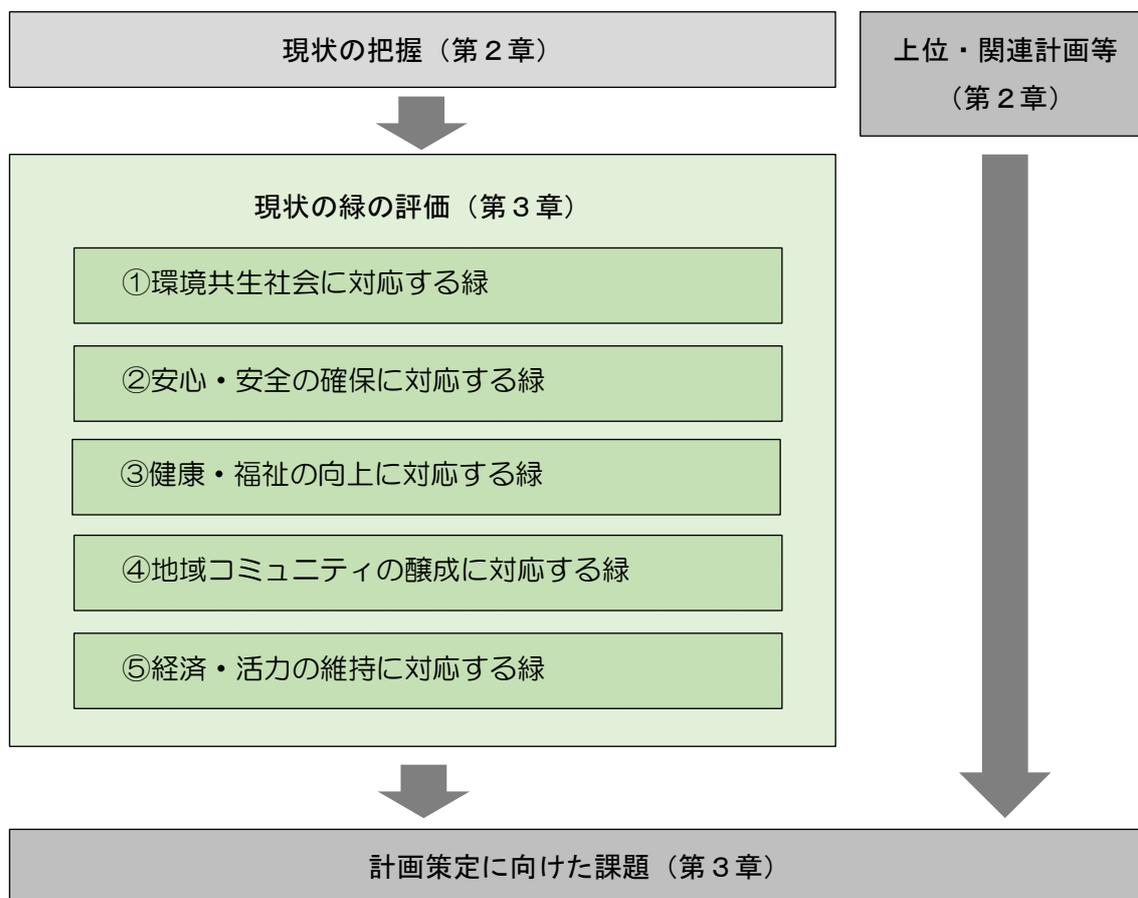
第3章 緑の評価と課題の整理

3-1 現状の緑の評価

緑が発揮している多機能性は、近年グリーンインフラ^{注1}として注目されており、都市計画マスタープランで示された「富士山や愛鷹山の恵みと都市の魅力が備わった快適で便利なまち 長泉」など、これからの目指す都市像の実現に向けた社会資本として、緑の重要性が一層高まっています。

ここでは、本町において、緑が果たす機能や役割を大きく5つに分類した上で、緑の機能や役割を整理し、緑の必要性や重要性、分布状況等を把握します。

<評価のフロー>



注1 グリーンインフラとは、自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方であり、米国で発案された社会資本整備手法のこと。国交省では、「社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの」としている。

< 緑の機能・役割の整理 >

分類	緑の機能・役割
①環境共生社会に対応する緑	温室効果ガスの吸収
	都市公害（騒音、大気汚染、ヒートアイランド等）の緩和
	都市における生物多様性の確保
	環境教育や自然とのふれあいの場
	雨水浸透・貯留による水循環
②安心・安全の確保に対応する緑	大規模火災発生時の延焼防止
	都市水害の軽減
	避難地・避難路、復旧活動拠点の場
	防災教育の場
③健康・福祉の向上に対応する緑	健康的なライフスタイルの提供（散歩、健康づくり、介護予防）
	子どもの遊び場、子育て支援
	快適な居住環境の形成
	リフレッシュ、ストレスの軽減
④地域コミュニティの醸成に対応する緑	緑豊かな郷土の景観の形成
	人の集う場、地域の活動の場
	緑の管理を通じたコミュニティの醸成
⑤経済・活力の維持に対応する緑	良好な景観形成による地域の価値の向上
	個性ある景観形成による都市の魅力の向上
	都市農業の振興
	賑わいの創出・観光振興

①環境共生社会に対応する緑

都市の緑は、二酸化炭素の吸収、大気の浄化、ヒートアイランド現象の緩和、生物の生息・生育空間としての機能を有しています。

■ 温室効果ガスの吸収

- ・愛鷹山麓の樹林地は、二酸化炭素を吸収・貯蔵し、地球温暖化の抑制に貢献しています。地球環境の保全のためにも、緑あふれるまちづくりの推進が重要です。



愛鷹山麓の樹林地

■ 都市公害（騒音、大気汚染、ヒートアイランド等）の緩和

- ・工場や工業団地の緑やオープンスペース、緑化された道路は、騒音、振動などを緩和する効果があります。
- ・宅地で普及している「緑のカーテン」は、建物の窓をゴーヤなどで覆い日射を遮ることで室内の温度を低減できます。



工業団地の緑

■ 都市における生物多様性の確保

- ・愛鷹山麓の樹林地は、ニホンザルやキジなど、野生鳥獣の生息の場となっています。コナラなどの二次林は、雑木林とも呼ばれ、カブトムシなどの昆虫が多く生息しています。
- ・黄瀬川や桃沢川などの河川や窪の湧水などで魚類や水辺地に生息する種類が確認されています。
- ・冷涼な気候に生育する植物から温暖な気候に生育する植物まで、さまざまな植物が分布しています。
- ・日吉神社、八幡神社、諏訪神社などの社寺林は、スズメやムクドリなどの鳥類の巣やねぐらとして利用されています。
- ・農地は生産の場として重要であるとともに、カエルなどの生物の生息空間となっています。
- ・都市の動植物種の円滑な移動を確保できるよう、樹林地や農地、動植物の生息や生育に配慮した都市公園や水辺地などを緑のネットワークでつないでいくことが重要です。



桃沢川

■ 環境教育や自然とのふれあいの場

- ・割狐塚稲荷神社、原分古墳など、貴重な自然環境について学び楽しめる「伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク」のジオサイトが町内に10箇所あります。



割狐塚稲荷神社

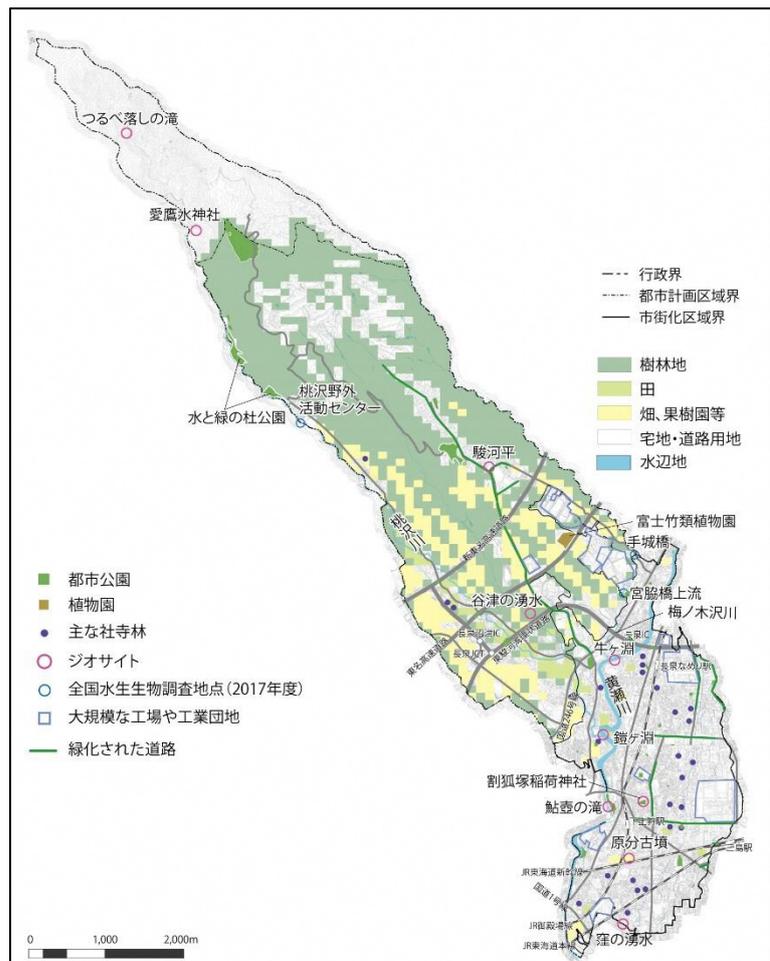
- ・水と緑の杜公園にはビオトープ、野鳥の森などが整備され、昆虫や植物などの自然観察が楽しめます。また、一般参加者、地域住民、緑の少年団の参加により、森づくりが行われています。
- ・桃沢川、黄瀬川、梅ノ木沢川では、水とのふれあいや水質浄化に対する意識高揚を目的に、中学生の水生生物の観察会が行われています。
- ・富士竹類植物園は、世界中の珍しい竹類が展示されており、竹林のなかを散策している感覚で見学することができます。
- ・本宿の水田では、2009年から田植え前に泥遊びイベントが開かれ、子どもが土や泥に触れられる機会となっています。



水と緑の杜公園

■ 雨水浸透・貯留による水循環

- ・愛鷹山麓の樹林地は、市街地を流れる河川の水源を涵養し、水質の良い流れを保っています。
- ・工場の緑地は、雨水を地下に浸透させることにより、地下水源の涵養、浸水被害の防止に役立ちます。



環境共生社会に対応する緑の分布

②安心・安全の確保に対応する緑

大規模火災の発生時の避難地や延焼防止帯、急傾斜地などの災害危険地の保護、雨水の浸透・貯留や遊水地としての水害の抑制といった、自然災害や人的災害からの安全・安心の確保に貢献しています。

■大規模火災発生時の延焼防止

- ・黄瀬川の水辺地は、市街化区域において延焼防止の役割を担う重要な緑です。
- ・黄瀬川以東の市街地の多くは、県の第3次地震被害想定データにおいて延焼危険度4とされていることから、緑化された道路、都市公園、農地、公共施設の緑とオープンスペースは身近な遮断帯として重要です。
- ・特に下土狩駅周辺では木造住宅が密集していることから、緑とオープンスペースの確保により災害に強いまちづくりが求められます。



黄瀬川



市街地の農地

■都市水害の軽減

- ・砂防指定区域、急傾斜地崩壊危険区域（箇所）、土砂災害（特別）警戒区域の緑地は、土砂災害を防止するために保全が必要です。
- ・黄瀬川の周辺の一部が浸水想定区域に指定されています。河川とともに周辺の公園などのオープンスペースは河川増水時の調節機能を有しています。
- ・樹林地、農地、都市公園は、大雨時に雨水を貯留する働きがあり、降雨時の下水道への負担軽減、内水氾濫の防止に役立ちます。



鮎壺公園

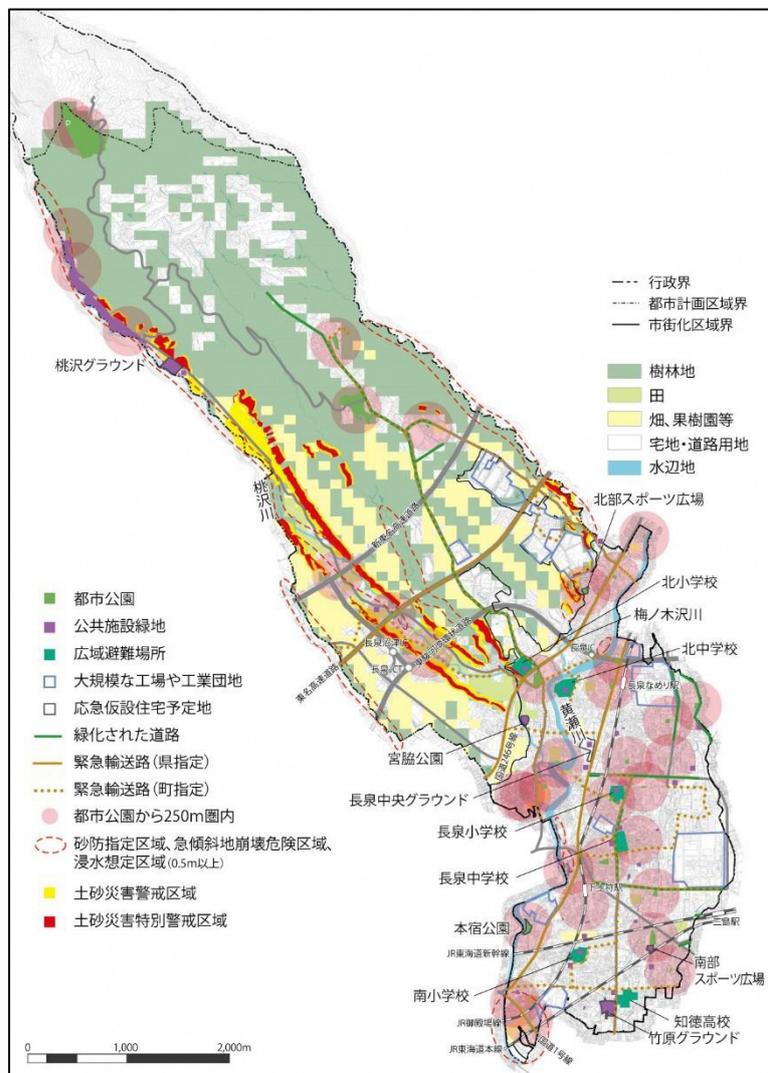
■避難地・避難路、復旧活動拠点の場

- ・都市公園は、災害時は火災の延焼の遅延や緊急避難の場、避難終了後は救援活動の場や復旧・復興活動の拠点としての役割を果たします。
- ・北小学校、北中学校、長泉小学校、長泉中学校、南小学校、知徳高校は、大規模な災害に備え、広域避難場所として指定されています。広域避難場所は2km以内を利用圏として想定されており、市街化区域内はほぼカバーされています。
- ・工場や工業団地の緑やオープンスペースは、延焼遮断、災害時の避難路や避難地として効果があります。

- ・緊急輸送道路に位置付けられている道路は、歩道や街路樹を有する道路の整備が進められており、震災時に避難や救急・消火活動、緊急物資輸送の重要なルートです。
- ・指定避難場所と広域避難場所における緑の確保と、沿道のブロック塀の生垣化など安全なアクセスルートの確保が必要です。
- ・桃沢グラウンド、北部スポーツ広場、宮脇公園、長泉中央グラウンド、本宿公園、南部スポーツ広場、竹原グラウンドは、応急仮設住宅予定地となっています。

Ⅰ 防災教育の場

- ・指定避難場所となっている都市公園は、平常時は防災訓練を実施する場として活用されています。



安心・安全の確保に対応する緑の分布

③健康・福祉の向上に対応する緑

都市公園をはじめとする公共的なオープンスペースは、健康の維持増進の場、子どもや子育て世代が遊べる場、介護予防につながる地域活動の場などとして貢献しています。

■健康的なライフスタイルの提供（散歩、健康づくり、介護予防）

- ・身近な公園（住区基幹公園）は、住民の日常のレクリエーション活動や健康づくりに利用されています。
- ・小規模な広場は、公園と補完的な役割を有し、幼児や児童の遊び場、高齢者の健康づくり、介護予防の場などとして活用されています。
- ・市街地内の都市公園の面積は少ない傾向です。特に、近隣公園の整備が遅れており、市街地のなかで緑に囲まれてくつろいだり休んだりする場所が不足しています。
- ・長泉町健康公園内には、長泉中央グラウンドやウォーキングコース、水遊びを楽しめる噴水などがあり、町民のスポーツ・レクリエーションの拠点となっています。
- ・竹原グラウンドなどのグラウンドは、球技などのスポーツの場として利用されています。
- ・桜堤遊歩道や黄瀬川遊歩道をはじめ、緑化され歩道のある道路や川沿い、公園などをつなぐ道路は、ウォーキングコースとして利用されていますが、更なるネットワークの充実が求められます。



御嶽堂公園

■子どもの遊び場、子育て支援

- ・公園や広場は、子どもがスポーツや遊び、自然体験などを通じて健やかに成長することに寄与しています。
- ・公園や広場は、施設のバリアフリー化や防犯性の向上などにより、安全性を高めることが求められています。
- ・桃沢野外活動センターは、青少年教育施設として、町内外の小学生や中学生の自然教室に活用されています。



中土狩第二広場

■快適な居住環境の形成

- ・市街地の河川、水路は生活に潤いを与えています。
- ・郊外の住宅地・集落地は、周囲を自然の緑に囲まれた潤いとゆとりある住宅地を形成しています。特に、駿河平地区や南一色地区は地区計画が定められ、宅地内の緑化などにより緑豊かで良好な居住環境を創出しています。



駿河平地区

- ・ゆとりと潤いある生活のため、各駅前広場周辺の緑化、街路樹、公共施設の緑化、都市公園、社寺の境内地、民有地の緑化など、市街地内において緑とオープンスペースの確保が求められています。

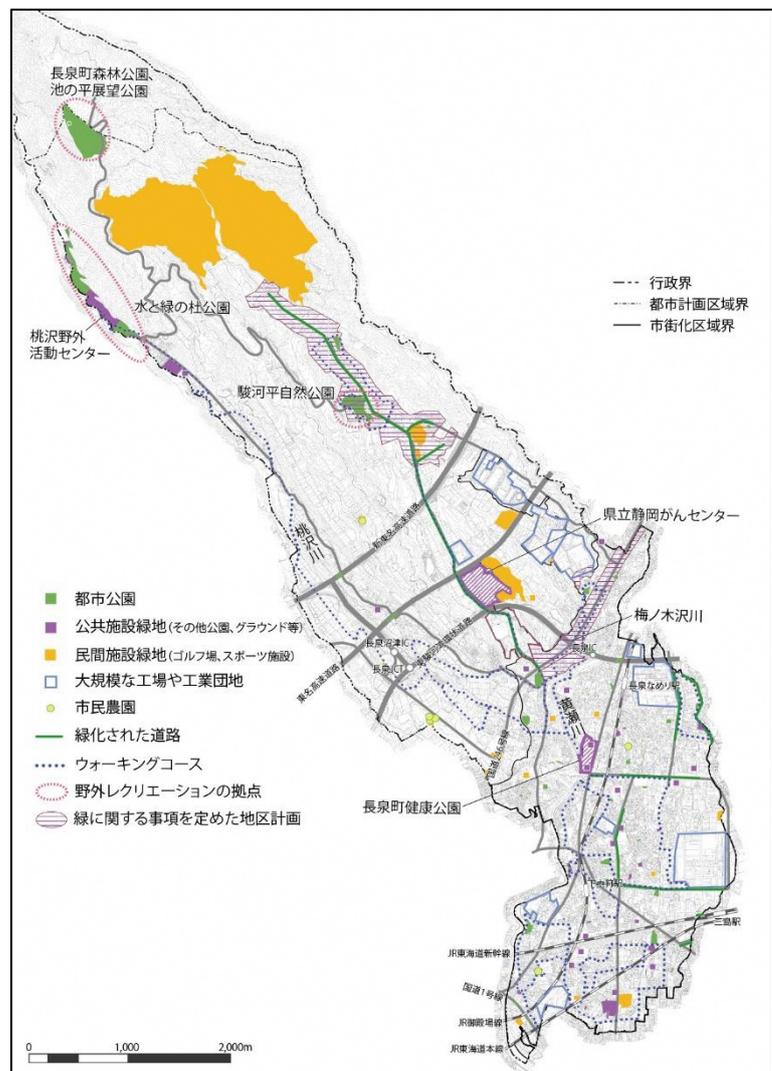
Ⅰ リフレッシュ、ストレスの軽減

- ・長泉町森林公園、池の平展望公園、駿河平自然公園、水と緑の杜公園、桃沢川、黄瀬川は、自然観察や野外レクリエーション活動の拠点となっています。
- ・鮎壺の滝緑地は、沼津市側と一体となった水辺地のレクリエーション空間で、親水護岸や吊り橋も整備され、さまざまな視点で鮎壺の滝を鑑賞することができます。
- ・北西部のゴルフ場は、豊かな森林と良好な景観を活かしたレクリエーションの場として、町内外の人に利用されています。



池の平展望公園

- ・工場など事業所内の緑とオープンスペースは、従業員のリフレッシュやレクリエーションに役立ちます。また、地域住民に開放することで、事業所と地域社会との融和が期待されます。
- ・県立静岡がんセンターは、敷地内に広大な庭園を有し、季節の草花を楽しんだり、富士山などを眺めたり、自然に癒される空間となっています。
- ・市民農園は、町民のレクリエーション、自家用野菜の栽培の場として活用されています。



健康・福祉の向上に対応する緑の分布

④地域コミュニティの醸成に対応する緑

郷土の景観の形成、祭りなどの行事、公園管理など、緑とオープンスペースの利用や管理活動などを通じた交流は、人々の地域への愛着を高め、地域コミュニティを醸成することができます。

■ 緑豊かな郷土の景観の形成

- ・ 愛鷹山麓の樹林地は、市街地の背景の緑として、また市街地から富士山を眺める際の前景として重要な役割を果たしています。
- ・ 黄瀬川や桃沢川は、町の南北をつなぐ連続した潤いの景観を形成しています。
- ・ 元長窪地区などでは、周辺の樹林地やとまとまった農地とが調和した里山の風景が見られます。
- ・ 桜堤遊歩道、鮎壺の滝、町道 425 号線の桜並木、下土狩の大いちょう、駿河平のイチヨウ並木など、桜やいちょうの見どころとして町民に親しまれています。
- ・ 長久保城跡、原分古墳など、史跡や社寺の緑は、地域の歴史を伝える要素として重要です。
- ・ 町内のほとんどの場所から富士山を見ることができ、駿河平自然公園、鮎壺の滝、桜堤遊歩道などは、眺望のできるオープンスペースとなっています。
- ・ 長泉町健康公園、文化センター（ベルフォーレ）、県立静岡岡がんセンター、御嶽堂公園といった大規模な公共施設は、敷地内が緑化され、地域のシンボルとなっています。



下土狩駅周辺からの富士山と愛鷹山の眺望



桜堤遊歩道



駿河平のイチヨウ並木

■ 人の集う場、地域の活動の場

- ・ 割狐塚稲荷神社、芦ノ湖水神社などの神社境内地では、社寺林に囲まれたスペースで年中行事が行われ、地域の歴史や文化を継承する機会となっています。
- ・ 地域の公園やオープンスペースでは、地域の桜まつり、夏祭り、防災訓練などが行われ、世代を超えた地域住民の交流の機会となっています。

⑤経済・活力の維持に対応する緑

身近な自然環境や高質なオープンスペースは、働く環境の向上や観光地としての魅力の増進、住宅の資産価値の向上など、地域経済・活力の維持につながります。

■良好な景観形成による地域の価値の向上

- ・ 県立静岡がんセンター周辺地区と新東名長泉沼津 IC 周辺地区は、条例に基づく「景観形成重点地区」が定められ、品格と活力のある産業地づくりが進められています。
- ・ 街路樹のある道路は、都市の風格や季節の移ろいを感じさせています。特に、町道下長窪駿河平線や町道 732 号線（大いちょう通り）、桜堤遊歩道は、景観計画において景観に配慮した整備が必要な道路（景観重要公共施設）として指定されています。
- ・ 大規模工場や工業団地内の緑が、自然と経済活動が調和した良好な景観を形成しています。
- ・ 民有地の緑化は、良好な日常生活の景観を構成し、特に駿河平地区は緑豊かな住宅地が形成されています。
- ・ 沿道の花壇やポケットパーク、ハンギングバスケット等による花は、沿道景観のアクセントとなり、楽しみのある歩行空間を創出しています。
- ・ 各鉄道駅周辺は、町の玄関口であり、多くの町民や来訪者が利用することから、緑は町のイメージを高める上で重要な役割を果たしますが、緑の更なる充実が求められます。



新東名長泉沼津 IC 周辺



大いちょう通り

■個性ある景観形成による都市の魅力の向上

- ・ 鮎壺の滝をはじめ、牛ヶ淵や鎧ヶ淵、原分古墳、窪の湧水、割狐塚稲荷神社、谷津の湧水は、伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク関連資源であり、本町の特徴ある自然景観となっています。
- ・ 水と緑の杜公園、駿河平自然公園、鮎壺公園（整備中）は、町内外の人に利用される都市公園であり、景観計画において景観に配慮した整備が必要な公園（景観重要公共施設）として指定されています。
- ・ 駿河平自然公園の吊橋と周辺の樹林地の風景や鮎壺の滝と桜や紅葉が一体となった風景は、本町の特徴的な美しい景観であり、町の魅力として町民に評価されています。



鮎壺の滝

Ⅰ 都市農業の振興

- ・農地は、長泉四ッ溝柿やクレマチス、長泉メロン、長泉大和芋、長泉白葱などの農業生産の場であり、本町の産業を支える重要な緑です。しかし、農地転用や耕作放棄地の増加により、農作物を生産する機能が失われつつあります。



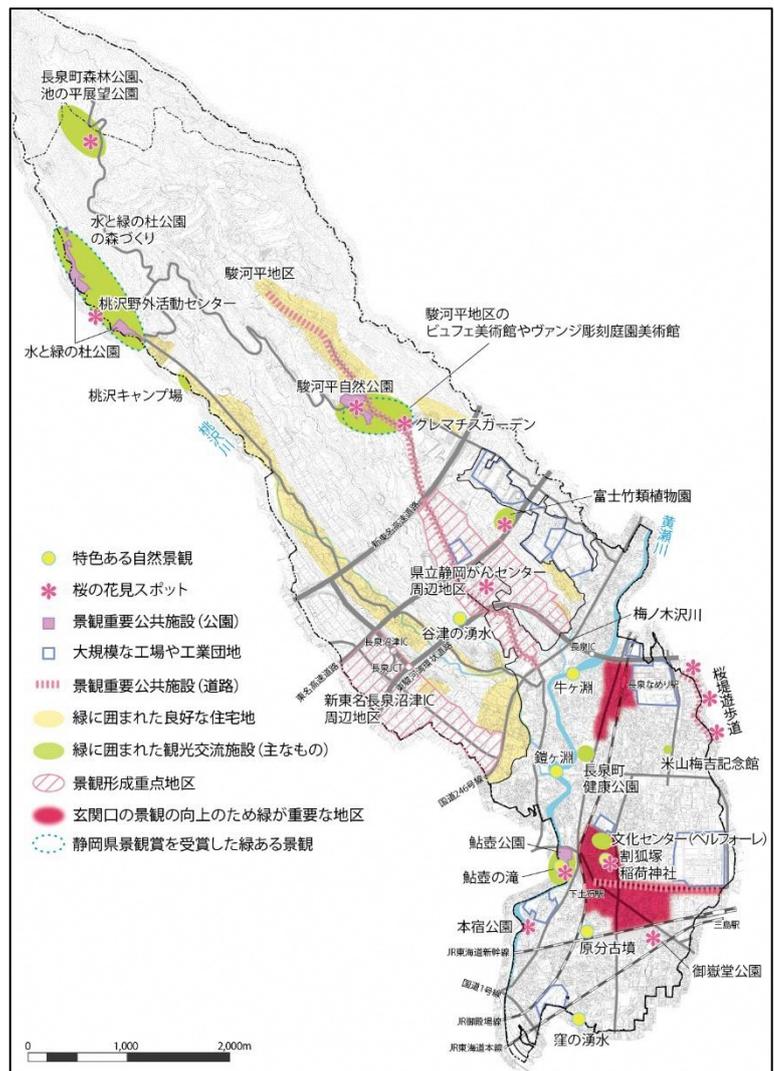
農地

Ⅱ 賑わいの創出・観光振興

- ・桃沢キャンプ場や水と緑の杜公園、長泉町森林公園、池の平展望公園、駿河平自然公園、鮎壺の滝などは、自然とふれあえる施設として観光振興にも寄与しています。
- ・水と緑の杜公園や駿河平自然公園、長泉中央グラウンド、ニコニコ広場などの大規模なオープンスペースは、多くの人々が訪れるイベント会場にも活用されています。
- ・駿河平自然公園や長泉町森林公園、鮎壺公園、御嶽堂公園は、桜の花見ができる公園として親しまれています。



水と緑の杜公園でのイベント



経済・活力の維持に対応する緑の分布

3-2 計画策定に向けた課題

緑の現状やアンケート結果等を踏まえた緑の評価、あるいは、上位・関連計画との整合、社会潮流の変化などを考慮して、計画策定に向けた課題を整理します。

（1）豊かな緑の保全、創出に関する課題

①公園の量と質の向上

- ・公園や緑地は、アンケート結果から多くの町民にとって将来に残したい環境、印象的な緑として認識されています。これまで整備を進めてきたものの、町民一人当たりの都市公園の面積の標準には達しておらず、他市町と比較しても整備水準が低い状況です。特に、市街化区域内でその傾向が顕著であり、徒歩圏（半径 250m）に公園・緑地がないケースもあることから、身近に緑の豊かさが感じられるまちを目指し、周辺のその他公園などの都市公園以外の公園や施設の状況も踏まえつつ、計画的に都市公園の整備に努めていく必要があります。
- ・しかし、市街化区域内は宅地化が進行し、まとまった規模の土地を取得することが困難な状況であるため、特に、居住を誘導する地域での公園等の計画的な整備や既存広場等の公園的な利活用を進め、潤いある緑豊かな住環境を実現することが必要です。
- ・既存の緑や周辺の公共施設の状況、地域住民のライフスタイル等を踏まえ、都市公園の防災・減災機能の向上、老朽化した公園施設の安全確保、住民ニーズの高い施設の整備など、都市公園の質を高めていくことが必要です。



中土狩第二広場

②湧水地や河川等の水辺の環境保全と魅力の向上

- ・町内の湧水地や鮎壺の滝、桃沢川、黄瀬川は、アンケート結果から多くの町民にとって将来に残したい環境・場所として認識されており、本町を特徴づける地域の資源として重要であるため、今後も自然環境を適切に保全していくことが求められます。
- ・河川には、伊豆半島ユネスコ世界ジオパークに関連する資源も多いことから、本町固有の魅力をさらに高めるため、河川の適切な管理や緑の創出が必要です。



鮎壺の滝

③愛鷹山麓の樹林地や農地の保全

- ・愛鷹山麓では、多機能性を有する自然環境として、樹林地を保全するとともに、農地は農振農用地区域の維持などにより保全していく必要があります。



愛鷹山麓

④鉄道駅周辺の魅力ある環境づくり

- ・下土狩駅周辺や長泉なめり駅周辺、三島駅北口周辺では、町の玄関口として、交流やにぎわいの創出、良好な景観形成等を図るため、積極的な緑化やシンボルとなる緑ある景観の形成が必要です。



下土狩駅周辺

⑤歩きたくなる緑の連続性の確保

- ・本町では、都市計画マスタープランや立地適正化計画等の関連計画において、「歩いて楽しいまちづくり」を目指していることから、歩きたくなる環境づくりのため、鉄道駅や公共施設、地域資源等を結ぶ道路沿道等において、既存の緑を活かしながら、積極的な緑化を図り、連続した緑の空間を確保することが必要です。



市街地内の住宅地

⑥快適な住環境を創出する市街地緑化の推進

- ・本町は、北部に豊かな自然が広がっている一方、市街地内では都市化が急速に進行してきたことから、市街地内におけるまとまった緑が少ない状況です。
- ・地域に潤いを与え、住環境の質や防災力等を高めるとともに、心身の健康増進等を図るため各住宅敷地内の緑化等も含め、市街地内を中心に身近な緑の保全や創出に取り組むことが求められます。

⑦歴史・文化を感じる緑の継承

- ・史跡や社寺の緑は、地域の歴史を伝える構成要素であることから、地域の歴史や文化を感じる緑として継承する必要があります。



社寺の緑

⑧緑のネットワークの形成

- ・生物多様性の確保のほか、環境保全、レクリエーション、防災、景観形成など、緑の有する機能が効果的に発揮されるよう、自然環境を有する樹林地や水辺と市街地の緑とをつなぐ緑のネットワークの形成が求められます。



街路樹による緑のネットワーク

（２）協働による魅力ある緑の活用、管理に関する課題

①シンボルとなる公園の活用

- ・水と緑の杜公園や駿河平自然公園、鮎壺公園等は、長泉ならではの自然環境を活かした公園であり、町のシンボルとして、自然にふれあうレクリエーションや観光交流等への活用が望まれます。
- ・長泉町健康公園や御嶽堂公園は、健康増進や地域交流の拠点としてさらに活用することが求められます。



駿河平自然公園

②町民や民間事業者による緑に関する活動の支援

- ・地域の緑や水辺の保全や創出等に関する活動に取り組んでいる町民や団体、民間事業者等が継続的に活動できるよう、活動への支援や人材育成等が求められます。
- ・良好な居住環境を創出するため、町民が自宅周辺の緑化等を進めることへの適切な支援が求められます。



小学生による田植え体験

③緑に関する情報発信や学習・体験の機会の創出

- ・緑の重要性の理解促進や緑を通じた地域への愛着や誇りを醸成するため、緑地や農地が有する多面的機能や史跡や社寺の緑にまつわる歴史・文化、環境に配慮することの重要性等について、情報発信や環境学習、緑とふれあう機会の創出等が必要です。
- ・特に、本町の将来を担う子どもの健やかな成長のため、幼稚園・保育園・こども園や学校等と連携し、植物の栽培等に関する指導者や協力者を募るとともに、継続的に緑に触れる機会を確保していくことが求められます。



④公園や緑を通じた地域コミュニティの醸成

- ・地域コミュニティの希薄化が進んでいること等を踏まえ、日常的な住民同士の憩いや交流、祭事やイベント等の会場、地域団体等による公園や緑地の管理等により、公園や緑を地域コミュニティの醸成に活用していくことが求められます。



水と緑の杜公園における森づくり

⑤多様な主体が連携したパークマネジメント^{注1}の推進

- ・子育て世代が住みやすい生活環境づくり、高齢者の健康増進、地域コミュニティの醸成などに寄与するよう、町民や各種団体、民間事業者、町など、様々な主体が連携し、公園を管理運営していく「パークマネジメント」を推進し、各主体が得意分野を活かしながら公園の機能と魅力の向上に取り組む必要があります。
- ・身近な場所にある小規模な公園等においては、地域住民等と町が協働しながら維持管理に取り組み、効果的な公園の利活用につなげていくことが求められます。

注1 各公園の理念、基本計画、基本方針に則り、顧客である市民の利益を増進することを念頭に、管理運営の目標を明確にし、管理運営のあり方を戦略的に企画し、諸条件を踏まえた管理運営計画を立て、それを効果的、効率的に実践するとともに、実施成果を計画目標と比較・分析し、必要な軌道修正や対策を図ること。

